

『当時の思い出』 五十嵐 康之（平成 11 年～20 年度会長就任）

私が東京冷蔵倉庫協会の会長職を勤めさせていただいたのは、平成 11 年から平成 21 年迄の 5 期 10 年でありました。今にして思えば、永きに亘りよく勤め終えたものだと思います。就任当時の我国経済は、前々年の大手証券会社の倒産、前年の銀行の相次ぐ倒産により深刻な不況下にありました。そうした環境下で、当業界も平成 10 年度、11 年度と運輸省調査による総合収支率が赤字（昭和 56～57 年度以来 16 年振りで業界 2 度目の赤字）となる等、厳しい状況に置かれていました。

その後、経済界の落ち着きと会員各社様の経営努力により、入庫、在庫の回復が図られ、ほぼ平常に復することができました。ほっとしたことを良く覚えています。

冷蔵倉庫の業務についても、経済の動きにつれて、変化を遂げて来ました。取り扱う商品は、原材料中心から食品加工品のウエイトが増加し、冷蔵倉庫の機能は従来の保管型に加え、流通型という新しい機能が求められるようになり、ピッキング、仕訳、小口配送等のセンター機能を有する冷蔵倉庫の形態が出現してきました。3PL という新たなビジネスモデルがクローズアップされてきた時代でもありました。そして、その流れは、今もなお続いています。

今後、我々、低温物流業界は、エネルギー、環境問題、設備の再構築など様々な問題が山積しておりますが、何と申しましても国民の生活・生命を預かる食糧に従事する事業であります。共に切磋琢磨しあい、知恵を絞って更なる未来に飛翔していけます事を祈念いたします。



平成 11 年 5 月 25 日

「第 26 回定時総会」（虎の門パストラル）